

あがつま



『わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。

わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。』

(ヨハネによる福音書 15章5節)

♪ 賛美歌を歌おう ⑱ 『馬槽のなかに』

讃美歌 121番

歌い出しが聖夜の情景であるためでしょうか、この歌はクリスマス賛美歌だとの印象を持つ方が少なくないようですが、歌詞の全体を見ると、キリストの生涯全体を「この人を見よ」という印象的なフレーズで歌う賛美歌となっています。

作詞者の由木康 (1926-)

(1926)は、日本の賛美歌界を指導した牧師(東京二葉独立教会(現・東中野教会))であり、賛美歌学者です。彼は中学三年の時に最初の賛美歌を書き、その後多数の賛美歌の作詞や訳詞を手がけました。『馬槽のなかに』について、由木はその著書の中で次のように語っています。

「そのころ私はほんとうの愛というものが果たしてこの世にあるであろうかと疑っていた。そのとき私の心に一つの光がひらめいたのです。たとい人間のくても、イエスの愛はなそれがあろう。イエスの生活と苦難と十字架には、少しのまじり気もない純粋な愛が表れている。イエスこそほんとうの愛の化身である」という確信です。この経験を書きとめようとして「生まれながらのこの人を見よ」の原詩です。(きんびかものがたりⅢ(日本キリスト教団出版局)より)

「この人を見よ」と、イエス・キリストを力強く指し示すこの賛美歌は、英訳されて外国の歌集にも収録されています。(稲垣真実)